

平成十八年四月開院 新しい医療拠点の形成を目指して

# 南部医療センター！ こども医療センター

平成十八年四月、南風原町新川に県立病院「南部医療センター・こども医療センター」が開院します。県では、南部保健医療圏における救命救急医療機関やこども病院の設置など県民の皆さんからの強い要望を踏まえ、高度化・多様化する医療需要に対応する多機能な病院を整備しました。新病院の理念である「人々が安心して来院し満足して帰る病院 働く者にいきがいのある病院」の実現を目指し、ニーズに沿った医療の提供に取り組んでいきます。



NICU (新生児集中治療管理室)

子ども部門の受付

オペ室(手術室)



子どもの診療室、病棟の壁や天井には動物などの絵や、インテリアを配置し、明るい空間にしました。また、病院には、長期に入院する子供のための院内学級も設置されます。



免震構造の一部を、そのほか、新病院では、台風時の暴風雨対策や停電対策も入念に行い、あらゆる安全性の確保を目指します。

## 県内初のこども病院機能

新病院には、通称「こども病院」とも呼ばれる機能を持つ「母子総合医療センター」を整備し、周産期(妊娠から新生児まで)から小児期全般にわたる総合的で高度な医療を行います。

県内初の施設で、これまで高度な心臓手術などの難しい病気については県外で治療を受ける場合がありました。新病院の開院により県内での治療を受けやすくなるため、患者さんや家族の皆さんの体力的・経済的負担が軽減されるようになります。

## 「建物はどうな特徴があるの？」

■災害時にも病院機能を確保  
災害時の拠点施設としての機能を担うため、「免震構造」を採用し耐震性を重視しました。この構造では、建物の基礎と土台の間に特殊な免震装置を付けることによって、地震が起きたときの地面の揺れが建物に伝わりにくくするよう設計されているため、仮に、大地震が起こった場合でも、激しい揺れが低減されて病院利用者の安全が図られます。

また、建物の構造体が損傷しにくいので、大きな補修を加えずに建物が再使用できるといわれています。

## 「わかりやすい空間構成

ホールを中心に、成人外来と小児外来を分けたことが大きな特徴です。また、案内板に頼らなくてもいいように、ホール近くに外来受付や検査室などを配置しました。

## 「プライバシーの確保と快適性

外来の診察の声が外に漏れないよう天井まで仕切ったつくりにするほか、病棟の四人居室では収納家具による仕切りでプライバシーの確保に配慮しています。また、療養環境を快適にするため、病棟の三・四階にある屋根面を緑化しました。



成人4人部屋の病室は、各ベット横に設けられた窓から外の様子がわかるような作りになっています。また、収納家具による仕切りでプライバシーの確保にも努めました。



案内図



南部医療センター・こども医療センター  
南風原町字新川118-1他  
TEL:098-888-0123 4月以降

## 「設立の必要性とその機能性

これまで南部保健医療圏は、人口が集中し、多くの救急患者が発生しているにもかかわらず、二十四時間体制ですべての救急患者に対して高度な診療を行う救命救急センターが未整備でした。

また、本県の出産前後から乳児期にかけての死亡率は全国に比較して高く、母体を含めた周産期医療の充実およびチーム医療の実施など包括的な小児医療に対して、さらに、がんや循環器病などを対象とする高度医療に対しては、県内での整備を求める多くの要望がありました。

そこで、県立那覇病院の老朽化に伴う改築を機に、これらに対応できる高度で多機能な病院として開院するのが、「南部医療センター・こども医療センター」です。

## 「どんな病院ができるの？」

新病院は、敷地面積が約五万七千平方メートル、延べ床面積が約三万六千五百平方メートル、地上六階建ての鉄骨鉄筋コンクリートの建物です。

ベッド数は四百三十四床で、そのうち、救命救急センター部分で三十床、母子総合医療センター部分で百二十床を占めます。

四月六日(木)から、外来診療、二十四時間三六十五日体制の救命救急医療が始まります。



3,4階の屋根面に中庭をつくり緑化を図りました。

## 「省エネルギーに配慮

強い日差しを和らげながら自然採光を取り入れるようなつくりにしました。また、雨水も有効に利用して水使用量を削減します。

## 「ユニバーサルデザインへ配慮

段差をなくすなどのバリアフリー化をさらに一歩進め、例えば、トイレでの蛇口についても、その使用方法が誰にでもすぐわかるようなユニバーサルデザインの採用を心がけました。



お問い合わせ 県立病院管理課 TEL: 098-866-2832 FAX: 098-866-2837